

遠野地域におけるニホンジカ被害の現状及び 地域と連携した被害防止対策の取組

東北森林管理局 岩手南部森林管理署遠野支署

業務グループ一般職員 茂木 だいすけ



1 はじめに

岩手県におけるニホンジカ（以下「シカ」という）は、明治時代から昭和初期にかけて乱獲されたため、個体数が減少し北上山地南部に位置する五葉山周辺（図-1）に生息するのみとなり、かつては「本州北限のシカ個体群」としてシカ保護政策が実施されていました。その結果、シカ個体数が回復し、1980年代から五葉山周辺地域においてシカによる農林業被害が増加しはじめ、1990年代初頭には非常に深刻な事態となったため、1994年以降、保護政策から一転して頭数管理等の被害防止対策が行われてきました。これにより、シカによる農林業被害は一時的に減少しましたが、近年今まで被害がなかった地域にまでシカの生息域が急激に拡大したため、対策が追いつかず再び農林業被害が増加しています。

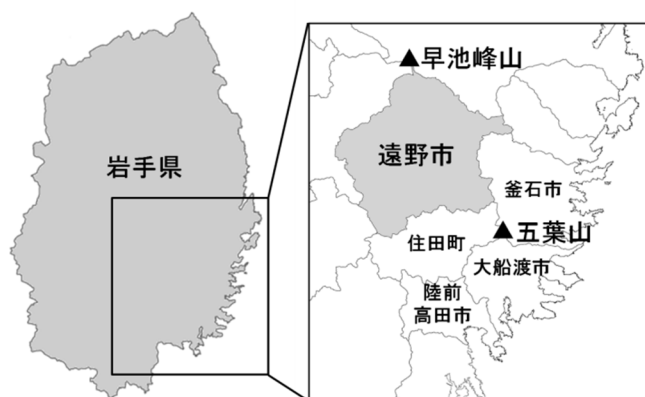


図-1 五葉山周辺図

中でも、五葉山の北西に位置する遠野市では、岩手県内でも特に深刻な農業被害を受けています。平成24年度の遠野市におけるシカ農業被害額は約1億4600万円で、岩手県全体のシカ農業被害額の約50%を占めています（図-2）。遠野市では畜産業が盛んで牧草地が多く点在しているため、牧草等の飼料作物の被害が特に多くなっています（写真-1）。

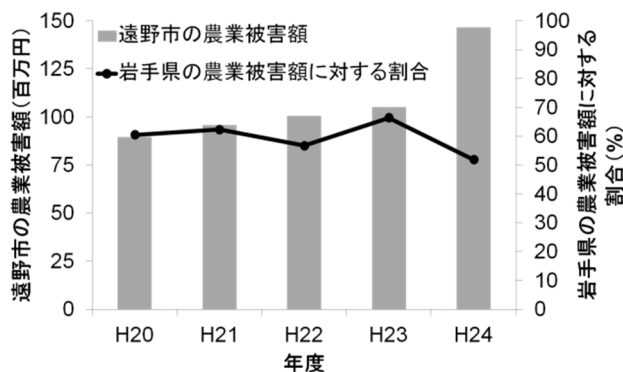


図-2 遠野市におけるシカによる農業被害額



写真-1 牧草地に出現したシカの群れ

（遠野市農林畜産部農業振興課より提供）

遠野市においては、現在若齢の造林地が少ないためシカによる林業被害はあまり見られていませんが、地球温暖化対策や齢級構成の平準化等のための主伐後の新植箇所が今後増加すると見込まれており、林業被害も農業被害と同様に劇害化するのではないかと懸念されています。すでに、国有林内において樹皮はぎや角こすり、幼齢木への食害等が確認されています（写真-2）。



写真-2 食害を受けたヒノキ幼齢木
（○で囲まれた箇所が食害部分）

遠野市では至るところでシカが目撃され、特に牧草地では数十頭もの大きな群れが確認されており、すでに市内全域には多くのシカが生息していると見られています。さらに、遠野市北部に位置し、森林生態系保

護地域に指定されている早池峰山^{はやちねさん}周辺でもシカが目撃情報が寄せられており、ハヤチネウスユキソウをはじめとした希少な高山植物への食害や生態系全体への影響が懸念されています。東北森林管理局が平成 23 年度から行っている調査によると、高山植物への食害はまだ見られていないものの、早池峰山周辺でシカが生息している痕跡が多く確認されており、シカ被害防止対策の実施が急務であることが示されています。

このような状況の中、地域住民からシカの有害駆除を求める声が多く寄せられており、遠野市等はシカ被害防止対策に力を入れていることから、当支署では、遠野市をはじめとした関係機関や地域住民と連携したシカ被害防止対策に取り組むこととしました。

2 取組の内容

（１） シカ捕獲支援としての林道除雪（平成 24 年度）

シカによる農業被害等の軽減に向け、遠野市では平成 24 年 8 月に地元の猟友会員を中心として「遠野市鳥獣被害対策実施隊」（以下「実施隊」という）を設置して捕獲体制の強化を図り、積極的にシカ捕獲を行っています。

これを受けて当支署では、冬期のシカ捕獲を支援するため、平成 24 年度より林道の除雪を実施しています。除雪を行うことによって車両での移動が可能となり、効率的にシカを発見し捕獲することができるため、より多くのシカの捕獲が期待できます。実施に際して、地元の猟友会や遠野市と連携し、シカが目撃情報や除雪箇所についての要望等の聞き取りを行った結果、遠野市北東部に位置する琴畑林道周辺でのシカが目撃情報等が多く、除雪の要望があったことから、琴畑林道の除雪を試行的に実施しました。

平成 24 年度の琴畑林道の除雪位置図を図-3 に示します。除雪距離は 10km、標高は 520～790m で、途中で 2 つに分岐する形となっています。除雪は平成 25 年 1 月から 3 月はじめにかけて 3 回実施しました。



図-3 平成 24 年度 琴畑林道の除雪位置図

除雪を実施した結果、平成 24 年度の琴畑林道周辺の除雪後のシカ捕獲数は 26 頭で、平成 23 年度の同じ期間の捕獲数と比べて約 5 倍となり（表-1）、除雪による効率的なシカ捕獲の効果が表れたと考えられます。

表-1 平成 23・24 年度
琴畑林道周辺におけるシカ捕獲数
(単位:頭)

	平成23年度	平成24年度
4～12月 捕獲数	24	58
1～3月 捕獲数	5	26※
合計	29	84

※除雪実施

(2) 除雪林道周辺のシカ生息状況調査

シカをより効率的に発見し捕獲するためには、シカが多く生息している箇所付近を除雪する必要があることから、冬期のシカの生息状況を把握することが重要と考え、除雪した琴畑林道周辺のシカの生息状況を調べるため、シカの足跡調査とセンサーカメラによる撮影を行いました。

① 足跡調査

除雪した琴畑林道周辺のシカの足跡の位置を記録し、その位置における積雪深を測定しました。調査は平成 25 年 2 月から 3 月にかけて 5 回実施しました。

足跡調査の結果、起点から最大 5km の位置まで、積雪深が 30～80cm の箇所に足跡が確認されました（図-4）。足跡があった箇所数と積雪深の関係（図-5）を見ると、積雪深が 70～80cm になると足跡があった箇所数は急激に少なくなり、80cm を超えると足跡は確認されませんでした。このことから、積雪深が 70cm 以上の場所ではシカはほとんど出現しない傾向があると考えられます。

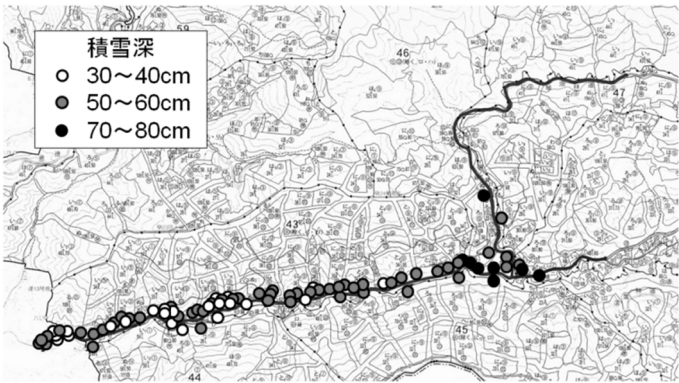


図-4 シカの足跡の位置と積雪深

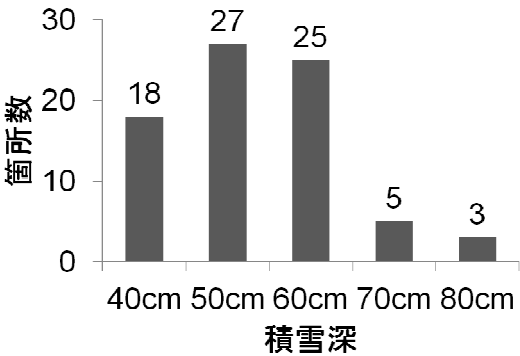


図-5 シカの足跡があった箇所数と積雪深の関係

② センサーカメラによる撮影

3 月中旬以降の融雪に伴い、足跡を観察することが困難になってきたため、センサーカメラを 6 台設置し（図-6）、平成 25 年 3 月から 4 月まで定点撮影を行いました。

撮影の結果、3 月下旬から 4 月上旬にかけて標高が比較的低い No.1、2、3 で、4 月下旬には標高が比較的高い No.6 でシカが撮影されました（図-7）。一方、No.4、5 では全期間を通して撮影されませんでした。積雪については No.1～4 では 3 月下旬、No.5、6 では 4 月下旬にほぼ全て解けており、雪が解け

た時期とシカが撮影された時期が重なっていることから、シカは雪解けとともに標高の高い場所へ移動しているものと考えられます。

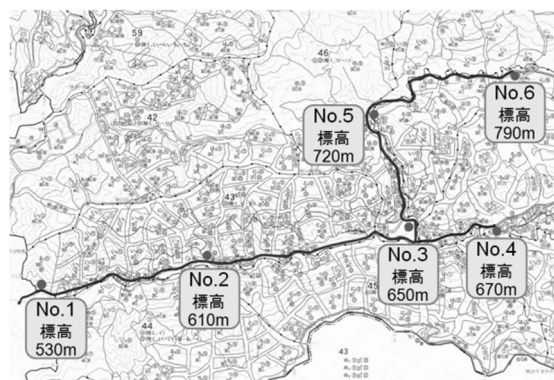


図-6 センサーカメラの位置

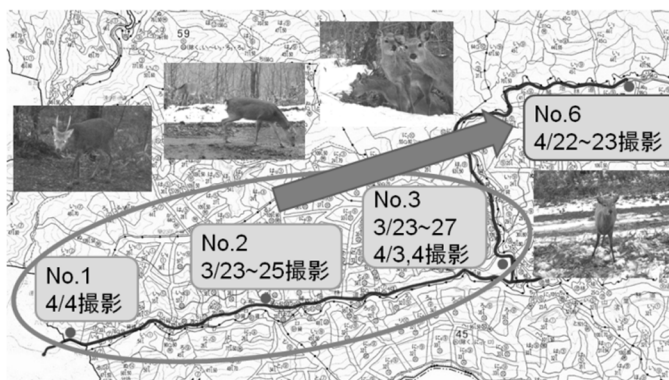


図-7 シカが撮影された箇所

③ まとめ

以上の 2 つの調査の結果、積雪深が 70cm 以上の場所にはシカはほとんど出現せず、雪解けとともに標高の高い場所へ移動していく傾向があることがわかりました。このことから、冬期のシカの生息域は積雪深によって大きく左右され、標高が高く積雪が多いところにはほとんど生息していないと見られます。したがって、シカの効率的な捕獲のためには、標高が高く積雪が多い箇所を避け、比較的標高が低い箇所を中心に除雪を行う必要があると考えられます。

(3) シカ捕獲支援としての林道除雪（平成 25 年度）

調査の結果を受けて、平成 25 年度には琴畑林道の除雪距離を 10km から 4.3km に短縮し、足跡調査において足跡があまり確認されなかった分岐点より奥の箇所を除外して除雪を行いました（図-8）。

除雪は平成 26 年 1 月から 3 月はじめにかけて 5 回実施しました。平成 25 年度は積雪が多かったため、平成 24 年度に比べて除雪回数が 2 回多くなっています。

除雪を実施した結果、平成 25 年度の琴畑林道周辺の除雪後のシカ捕獲数は 179 頭となり、平成 24 年度の同じ期間の捕獲数と比べて約 7 倍と大幅に増加しました（表-2）。このことから、前述の調査によって示唆されたとおり、標高が高く積雪が多い箇所を避けて比較的標高が低い箇所を中心に除雪を行うことにより、シカを効率的に捕獲することが可能になったと考えられます。

また、平成 25 年度には実施隊員の方の意見要望や前年度のシカ捕獲実績等を踏まえて、琴畑林道を含め、図-9 に示した 4 路線において平成 26 年 1 月から 3 月はじめにかけて除雪を行いました。その結果、除雪林道周辺の除雪後のシカ捕獲数は 322 頭となり、

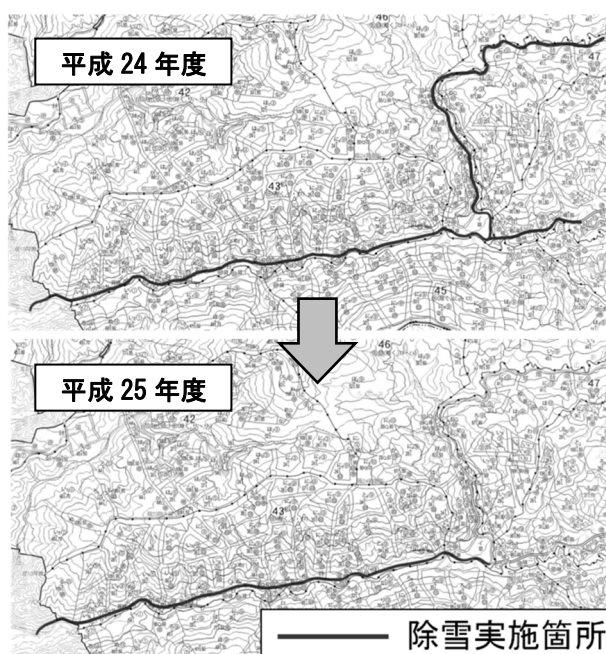


図-8 平成 25 年度 琴畑林道の除雪距離短縮

同時期の遠野市全体におけるシカ捕獲数の約 41%を占めるという大きな成果を上げることができました。しかし、成果の乏しい路線もあったことから、除雪箇所の更なる検討が必要であると考えています。

表-2 平成 23～25 年度

琴畑林道周辺におけるシカ捕獲数

(単位:頭)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度
4～12月 捕獲数	24	58	95
1～3月 捕獲数	5	26※	179※
合計	29	84	274

※除雪実施

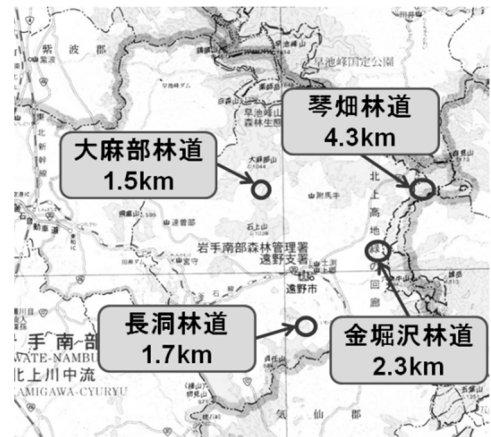


図-9 平成 25 年度除雪箇所

(4) 遠野地方有害鳥獣駆除協議会への参画

当支署がシカ捕獲支援として林道除雪を行うに当たって、「遠野地方有害鳥獣駆除協議会」(以下「協議会」という)に参画しました。この協議会は、遠野市や猟友会、市内の農林業関係者等で構成され、有害鳥獣駆除や防除対策の検討、実施等を行っている組織です。当支署は、地域と連携したシカ被害防止対策を推進するため、平成 25 年度よりこの協議会に参画し、シカに関する情報の共有や意見交換、さらにシカの生息状況に関する情報や除雪林道についての要望の聞き取り等を行っています(写真-3)。

この協議会の中で、林道除雪の継続を望む声が多く寄せられていることから、今後も継続して林道除雪を実施していきたいと考えています。



写真-3 協議会の様子

3 今後の取組と課題

現在実施している林道除雪については、シカ捕獲者等から引き続き実施を望む声が多く寄せられており、一定の成果を上げていることから、関係機関と連携しながら今後も継続して実施していく方針です。今後は、シカ関連の調査資料やシカ目撃情報等を収集して冬期のシカの生息状況を把握した上で、除雪箇所の更なる検討を行い、より効率的なシカ捕獲につなげていきたいと考えています。

また、林道除雪だけではなく、今後更なるシカ被害防止対策が必要となってくると思われますが、そのためには、関係機関や地域住民等との連携が必要不可欠です。さらに、シカ被害が市町村の境を越えて広範囲に渡っていることから、遠野市だけでなく、岩手県や他の市町村、隣接する森林管理署等との広域的な連携を深めていくことが重要と考えています。

今後、地域連携の環境づくりを進めながら、更なるシカ被害防止対策を地域と一体となって推進していきたいと考えています。